

令和元年度 福井型コミュニティ・スクール 実施報告書

あわら市芦原中学校

1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成

協議会委員 (10名)		
PTA 代表(3)	地域コーディネーター(4)	中学校(4)
<ul style="list-style-type: none"> ・会長 (本荘小区) ・副会長 (北潟小区) ・副会長 (芦原小区) 	<ul style="list-style-type: none"> ・有識者 (本荘小区) ・有識者 (本荘小区) ・有識者 (芦原小区) ・民生委員 (北潟小区) 	<ul style="list-style-type: none"> ・校長 ・教頭 ・教務主任 ・生徒指導主事

(2) 協議会の内容

<p>3回の開催 (予定)</p> <p>① 6月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議会の取組と学校経営方針について ・生徒の学習・生活状況について <p>② 12月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価について ・小中高の連携について <p>③ 3月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価の分析、検証と改善策について

(3) 協議会における成果と課題

昨年までは学校生活・家庭生活アンケートを5月、1月に実施していたが、委員から「それでは課題の改善が来年度になってしまう」という指摘を受け、新たに9月にも実施した。9月の結果を踏まえて改善策・向上策を打ち出し、年度後期に課題の改善に向けて取り組むことができた。主に部活動の削減やスマートフォン使用のルール、ボランティア活動等について議論され、中学校行事として地域の人々が参加できる行事を増やしてはどうかという提案をいただいた。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

- 体験学習や調査活動を通して、助け合いの精神を育て、自分に何ができるか考え、働きかけのできる生徒の育成を図る。
- 地域の方と連携して福祉教育を行うことにより、地域福祉推進の一助となる態度を育てる。
- 総合的な学習の時間を中心に、特別活動や道徳との連携により、解決する必要がある社会課題を発見させ、それに取り組む意思と行動の育成を図る。

(2) 活動の実際

① 「あわら市PR活動」 2年生 (7月～10月) 3年生 (5月～6月)

金沢駅前や兼六園にてあわら市PR活動 (ポスター制作、アンケート依頼、温泉の素の配付等) を実施した。今後はJTBと連携しPR活動の効果を検証していく。修学旅行では東京の3カ所でブースを設け、生徒自作のPR動画等を用いPR活動を行った。まとめは市役所にて掲示した。

〈東京での観光PR活動〉



〈イラストレーターと協力したPR活動〉



(様式3)

②「職業別選択講座」「職場体験学習」1年生(12月~1月) 2年生(4月~5月)

地元の企業で働いている方や起業している方の講演から、地域の現状を知り、自分のキャリアデザインを考えた。職場体験では生徒自身が希望の企業に電話でアポを取り、体験したことをまとめ、クラス等で発表した。

〈電話で職場体験の受け入れを依頼〉



〈温泉での職場体験〉



(3) 地域コーディネーターの活動概要

- ・ 芦原中学校におけるキャリア教育の推進
- ・ 取組みの成果と課題についてのアドバイス
- ・ 地域と連携した取組みのあり方

(4) 特に工夫した事項

- ・ 職業に対する意識を高め、十分な事前学習を行うことに加え、選択制を実施したことにより、例年以上にしっかりと目的を持って望んでいる生徒が多かった。

(5) 成果と課題

- ・ ふるさと芦原の郷土の歴史、自然や伝統、産業などを学ぶことに加え、金沢駅での観光PR活動を実際に体験することにより、生徒のふるさとへの誇りや愛着、課題探究力、創造力、表現力を育成することができた。
- ・ あわら市の成り立ちを学ぶ郷土歴史講演会や「あわら市の水道を学ぼう」講演会、秋の校外体験学習でのボランティア、職業インタビュー(1年次)に加え、職場体験(2年次)や関東修学旅行でのあわらPR活動(3年次)と関連づけながら、中学校3年間を通したふるさと教育カリキュラムを構築することができた。
- ・ 観光PR動画作成等の校外活動を通して、地域の一員である自覚、地域社会への感謝の心を育てることができた。
- ・ 北陸新幹線の延伸に向けて、あわら市はふるさと教育を最重要課題の1つと位置付けており、今後も継続的に自主的に取り組んでいけるような啓発と、意識を向上させる取組みの工夫が必要である。また、授業時間が限られる中で、ふるさと教育の規模を縮小することなく、これまでの質を維持していくことが今後の課題である。

〈東京新橋駅でのインタビュー〉



〈市役所にて展示〉



(様式3)